

「災害監視カメラの運用開始について～災害対応のため市内27か所にカメラを設置します～」

市長

「災害監視カメラの設置」についてご説明します。

防災対策で1番重要なことは、当然ながら市民の命を守ることです。近年の激甚化する自然災害に備え、迅速かつ確かな防災体制で、目の前の命を守ることが私の責務であると考えています。

そのため今年から、災害対応の中心となる危機管理課を私の直轄である市長室に移管するとともに、危機管理に長年携わってきた自衛隊OBを危機管理監として招聘しました。

また、避難所運営の見直しや災害凶上訓練の実施など、防災対策の強化を図っているところです。

今回新たに、これらの防災強化対策の一環として、市内で過去に冠水や越波、積雪などに被災した27地点に災害監視カメラを設置しました。

すでに本稼働しており、行政だけではなく、誰でもがリアルタイムで映像の閲覧が可能となっています。このカメラの設置の1番の目的は、災害対応に当たる職員が現場に行くよりも、迅速かつ安全に災害現場の状況をリアルタイムに把握をし、早期の災害対応に活用することにあります。

そして市民の皆さまに、災害時に直接危険箇所に行くことなく、リアルタイムで状況を確認していただき、今後の予測や、遅滞のない避難の判断に役立てていただきたいと思います。

やはり、市民の皆さまに、災害を自分事として捉えていただくには、こうしたリアルタイムでの映像情報に勝るものはないと思っています。

映像を市民と共有することで早期の避難を促すとともに、まずは自分の身を自分で守るという自助の部分の意識づくりにもつなぐことができると考えています。

計27カ所の具体的なカメラの設置位置は、越波・津波15カ所、冠水8カ所、積雪4カ所の27カ所です。

なお、冠水8カ所のうち、国道16号のコースカ前のカメラ1基については、現在も国土交通省と協議中であり、12月中旬頃には映像の公開を開始できる予定になっています。映像確認の方法ですが、市のホームページのトップページから災害監視カメラのページリンクがありますので、カメラページから市内全域地図のページ、各地域のページと進み市内地図の地点をクリックすることで、横須賀市公式YouTubeチャンネルに遷移し映像を閲覧することができます。

また、大雨警報発令などの災害時には、横須賀市公式LINEや防災情報メールによるプッシュ型の通知内容に、カメラ映像へのリンクを掲載することで、市民の皆さまに映像の閲覧を促し、情報の確認と避難の判断の助けとなるようにする予定です。

ここ数年、必ず、国内のどこかで数十年に1度の規模と表現される特別警報が発令されているところです。

幸いなことに横須賀市では、今年も現在まで、大きな災害に見舞われることなく、穏やかに年末を迎えることができそうな状況です。

ただこれは、本当に運がよいというか、私たちに災害の備えの準備の時間を天が与えてくれたのではないかと考えています。

引き続き、いつ起こるともわからない大災害に備え、準備を怠ることなく、市民の安全で安心できる生活を守るため、防災対策に万全を期していきたいと考えています。

実は、この災害監視カメラは、3年前、千葉県を中心に大きな被害を与えた台風15号に対する災害対応に当たっているときから、早期の設置が絶対必要だと考えていました。

この台風により、市内では、風雨と越波により複数の被害が発生していました。

特に、最も被害の発生した時間帯が、夜間であったことから、市民の方から通報をいただいても、その全容の判明には時間を要していました。

実際には、被害現場に直接赴いて状況を確認するしか方法はなかったのですが、当然、二次災害を防ぐために職員の派遣はおいそれと決断ができなかったのが当時の現状です。

結果として、いてもたってもいられなくなり、私自身が現地へ赴き、今回カメラを設置した久里浜海岸の越波による道路冠水状況や、各避難所など市内の状況を確認しました。先ほども申し上げましたが今回カメラを設置した27カ所はこれまでに浸水や越波、積雪など被害のあった場所であり、今後は、直接現場に行くことなく、安全な場所からリアルタイムで状況を確認できるようになりました。

市民の皆さまも映像を確認することができ、災害時には、公式LINEでのプッシュ式で閲覧を促すなど、災害を自分事として捉えてもらうのに非常に有効な手段だと思っています。一昨年のドローンの運用開始、昨年の油圧ショベルとホイールローダーの消防団長からの寄贈による配備に続き、また1つ横須賀市の防災に強力なツールが増えたのではないかと思います。私からは以上です。

続けて、事務方から操作デモを行います。

■災害監視カメラについてのデモンストレーション

危機管理課職員

横須賀市公式ホームページのトップページに「災害監視カメラ」のページを準備しています。

このページから横須賀市全域の地図が映し出されます。こちらの地図から地区を選んでいただき、カメラの地点、または、拠点のどちらをクリックしていただきます。

今回は冠水、越波、積雪それぞれ1つずつ紹介させていただきます。

はじめに冠水ですが、例えば、上町の歩道橋付近。こちらをクリックすることで、YouTubeに遷移し、現場の状況が確認できます。

続いて、越波について、馬堀海岸の状況を写します。

先程同様、地図または拠点を選択することで映像を確認できます。

最後に積雪ですが、NTTの横須賀研究センターを選択すると、このように現在の状況を確認することができます。これらのように現場に行くことなく、現場の状況を確認することが可能となります。以上です。

■質疑応答

記者

現在、26 か所稼働しているということですが、いつから稼働していたのでしょうか。

危機管理課職員

9月から設置を開始し、現在26か所、設置が完了しています。

記者

9月から稼働していたということでしょうか。

危機管理課長

9月から、災害カメラの設置工事を開始し、映像を公開できる段階に至ったのは本日はです。

記者

本日から運用開始ということでしょうか。

危機管理課長

はい。

記者

市内に災害監視カメラを設置することにより期待される効果。また、どのような思いで設置されたのか教えてください。

市長

先程申し上げたとおり、一昨年台風15号が接近した際、夜間に越波や冠水についてリアルタイムの状況を確認できませんでした。

久里浜の危険個所の状況を確認に行った際、多くの車が往来していました。

その状況を見て、危険個所であるということが全く認識されていないと感じたとともに、何らかの方法で、市民もしくは助けに来る人達が、状況を確認する必要があるのではないかと思います。

もっと大きなカメラをつけたいと思ったのですが、個人情報等の問題でかなわなかったため、できるだけ市民が危険を回避できるような、自分の目で確かめるようなものを早急に設置するべきだと感じました。

いつも申し上げるのですが、とりわけ西の地方の首長にお会いすると、常に臨戦態勢で、いつ起きかわからないことに対し、ものすごい危機感を持っています。関東の方は、それほど災害が多くはなく、いろいろな意味で恵まれていたのですが、そういう時代ではなくなった時に、まさきに災害監視カメラが必要であると感じていました。

カメラの設置により、できる限り市民の安心、安全のために早急に対策をとることが急務であると感じていたため、その第1歩が進めたということで非常に満足しています。

記者

当初予定していた予算で設置できたのでしょうか。

危機管理課長

はい。

記者

災害監視カメラについて、他の自治体での先進事例はあるのでしょうか。もしくは横須賀が初なのでしょうか。

危機管理課長

川の氾濫などの状況を確認するカメラを設置している自治体はあります。しかし今回、横須賀市で設置した越波や冠水などの状況を確認するための災害監視カメラというものは、私どもが確認した範囲では、見当たりませんでした。

市長

ご承知のとおり、丘陵地が多く、山崩れ等もあるため、個人的には大きなものを設置したいと考えていました。一定の高さから、2基で横須賀市全体を見ることができるカメラもあるとのことでしたが、肖像権や個人情報など法的な問題等があり、設置することがかなわず残念です。

記者

危険な場所というものはもっとあると思うのですが、なぜ、今回、この27か所に設置したのか理由を教えてください。

危機管理課長

過去に被災した地点を中心に選定をしています。

記者

被災の内容としては、例えば、避難とかでしょうか。

危機管理課長

はい、避難も含みます。

その他として、例えば、積雪。事故が起こらない、また未然に防ぐために除雪を行った場所。また、越波であれば、波が高く被り、護岸に大きな岩が打ち上げられた箇所。さらに冠水につきましても、道路が冠水し、排水のために側溝の清掃を行わなければならないような状況であった場所を選定しています。

記者

そのような被災箇所すべて網羅しているということでしょうか。それとも予算の関係上、27か所に絞ったのでしょうか。

危機管理課長

概ね30か所程度あれば網羅できるであろうということを踏まえ、この設置数としています。設置を検討するにあたり、消防局や建設部などの災害対応等を行う部局と協議を行い、最終的に決めた設置数が27か所です。

市長

大体は網羅できていると思っています。

記者

今後、増設する予定はないということでしょうか。

市長

いまのところ考えていません。

記者

運用にあたり保守費用等のランニングコストはどのくらいかかるのでしょうか。

危機管理課長

まず、このカメラはインターネットを經由して映像を撮影しているため、その通信費用がかかります。また、カメラ本体を定期的に確認していただく保守費用や、その他ホームページで映像配信するための利用料金などがかります。

設置工事費と比較すると、大きな金額ではありません。

記者

どのくらいの金額か教えてくださいませんか。

危機管理課長

後程、お伝えさせていただきます。

■記者会見後回答

以下のとおり見込んでいます。

1 カメラ及び映像配信システムの保守管理	3,168 千円
<u>2 サーバー利用、映像配信などその他の通信料</u>	<u>8,361 千円</u>
1年間のランニングコスト（総額）	11,529 千円

記者

この YouTube で配信しているものを、例えば市民の方が SNS 等に転用することについて、何か制限はあるのでしょうか。

危機管理課長

申し訳ありませんが、現時点でそこまでの検討には至っておりません。

ただ、拡散により、多くの方々に広く伝わることは良いと思います。

市長

ただ、リアルタイムではない情報が拡散する可能性もあるという不安な点もあるかと思えます。デマなどの誤解を与えてしまう可能性や愉快犯が出る可能性などもあるため、今後、しっかりと検討していきたいと思えます。

記者

ウェアラブルカメラを導入する予定もあったかと思いますが、すでに導入しているのでしょうか。

危機管理課長

はい。

記者

この画像は、YouTube に上げるのではなく、災害本部に届くということなののでしょうか。

危機管理課長

ウェアラブルカメラにつきましては、職員が現場映像を災害対策本部へ送ることを想定しているため、YouTube に上げる予定はありません。